

平成18年度護持会決算書

項 目	18年度予算	18年度決算	増 減	摘 要
収 入	円	円	円	
護持会費	2,400,000	2,452,000	52,000	過年度分を含む
繰越金	125,574	125,574	0	前年度より
雑収入	10,000	102,628	92,628	利子・墓伐採木売却金
合 計	2,535,574	2,680,202	144,628	

支 出				
寺院維持費				
1. 本山費	850,000	841,580	▲8,420	本山負担金
2. 修宮繕費	100,000	127,534	27,534	簡易下駄箱2台・スロープ部品交換・消防設備点検
3. 維持費	370,000	344,083	▲25,917	電話電気基本料・水道料
4. 保険費	370,000	367,859	▲2,141	火災・厚生一唐丹漁協一
寺院経営費				
1. 会議費	60,000	61,600	1,600	総会費・茶菓子代
2. 総務費	60,000	56,334	▲3,666	見舞金・庫裏改築趣意書と寺報の発送費
3. 管理費	300,000	330,000	30,000	庭園整備
4. 雑費	30,000	92,400	62,400	庫裏改築趣意書と封筒の印刷
5. 寺報費	110,000	117,600	7,600	寺報36号～37号印刷
6. 積立金	200,000	200,000	0	唐丹漁協
7. 予備費	85,574	80,746	▲4,828	稻荷参道杉の製材費
合 計	2,535,574	2,619,736	84,162	
残 金		60,466		次年度へ繰り越し

此錯彼錯

▼連綿とは絶えずに長く続くことで、「連」も「綿」も長く続く意味がある。切れ目なく続くことなのだろう▼当山には歴代の住職が書き記し続けてきた過去帳がある。江戸時代の過去帳上中下の三冊に分かれている。一番古い年号は慶安三年（一六五〇年）と記されている。当山は慶長六年（一六〇一年）の開山以来二度の大火に遭っているが、奇しくも過去帳だけは焼失を免れてきた。それだけ重要度が最も高いなものである▼過去帳には当地方の歴史が刻まれている。年代的に飢餓、疫病、流行風邪などで亡くなっていることがうかがい知ることが出来る。また漁船の遭難では、天和二年（一六八二年）十二月二十五日、四艘五十三人、そして弘化四年（一八四七年）六月十八日、九艘六十九人が亡くなり。明治の三陸津波では、一六四九人・昭和の津波では、三五六人が亡くなっている▼過去帳は今日まで三五七年間、法灯続続、連綿として書き記されてきたのである。

〈大天〉